

14.8

168

14.8-168



1200501227504

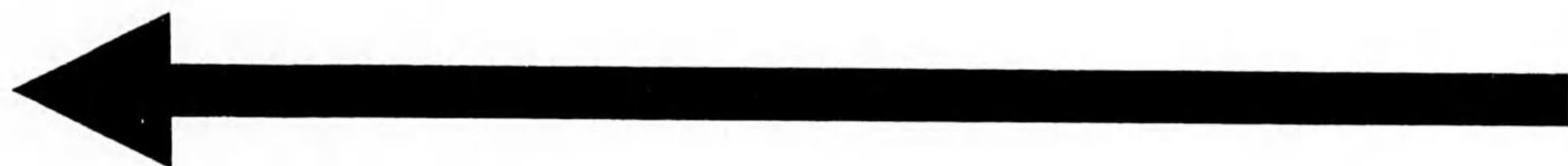
社団法人
日本放送協會
事業報告

昭和十四年度

同
公
編



始



14
16

昭和十四年度事業報告



法人團
日本放送協會

昭和十四年度事業報告目次

第一 事業報告

一、總會	一
二、定款中一部改正	一
三、役員ノ異動	一
四、會員數及其ノ異動	一
五、業務組織ノ一部變更	一
六、放送設備ノ擴張改善	一
七、放送狀況	一
八、聴取加入者數及其ノ異動	一
九、放送聴取規約ノ改正	一
一〇、契約及料金事務取扱方法ノ改正統一	一
一一、聴取料金免除範圍ノ擴張	一
一二、非常災害罹災者ニ對スル聴取料免除	一
一三、ラヂオ體操の會	一



昭和十四年度事業報告

本年度(自昭和十四年四月三十一日)ニ於ケル事業ノ概況左ノ如シ

一、總會

昭和十四年五月十五日第十三回定時總會ヲ東京市麴町區丸ノ内一丁目二番地ノ壹日本工業俱樂部ニ開催シ昭和十三年度事業竝ニ決算ヲ報告シ定款中一部改正及役員ノ補缺選舉ヲ行ヒタリ

二、定款中一部改正

定款第十條中「常務理事二名以内トアルヲ」常務理事三名以内ニ改メ昭和十四年五月十五日逕信大臣ノ認可ヲ得タリ

三、役員ノ異動

(一) 理事

- 一、昭和十四年五月十五日西邨知一理事就任
- 一、同 日矢部謙次郎理事就任

一四、事業ノ周知宣傳	三
一五、特殊サービスノ充實	四
一六、受信用機器認定	四
一七、放送局型受信機	五
一八、支那事變關係臨時施設	六
一九、實用新案登録	七
二〇、事業ノ調査研究	六
第二 決算報告	五

一、昭和十四年五月十五日理事米澤與三七常務理事就職

(二) 評議員

一、昭和十四年十一月一日伊藤次郎左衛門辭任

二、昭和十五年一月六日青山祿郎逝去

四、會員數及其ノ異動

(一) 昭和十四年度末現在會員數及出資口數

會員數	出資口數	一口	二口	三口	四口	五口	六口	七口	八口	九口	十口	十一口	十二口	十三口	十四口	十五口	十六口	十七口	十八口	十九口	二十口
	口數	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
五、四、三	六、八、四	五、二、一	九、〇	三、四	八、一、四	二、三、七	一、一、三	三、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一

(二) 昭和十四年度内ニ於ケル會員數ノ異動

相續入會	新規入會	計	減				計	差引増減
			退會	死亡	其ノ他			
九四	一	九五	九	九四	一四	一一七	減二二	

備考 減ノ内其ノ他ハ法人會員ノ合併等ニ依ルモノナリ

五、業務組織ノ一部變更

(一) 建設部ノ新設

時運ノ進展ニ伴ヒ益々加重セラレル放送事業ノ使命遂行上特ニ放送網ノ擴充、使用電力ノ強化並ニ既設放送設備ノ改善等設計及工事ニ關スル方面ノ事務運行ノ圓滑ヲ期スル要緊切ナルヲ認メ技術局工務部ヨリ關係事務ヲ分離シ之ヲ以テ建設部ヲ設ケ昭和十四年四月一日ヨリ實施シタリ

(二) 國際部ノ新設

東亞ノ新秩序ト國際情勢ノ變化ニ伴フ國策ニ順應スル爲海外放送、國際放送及日滿支連絡放送ノ各部門ニ互リ之ヲ統合擴充ヲ計ルコトトシ業務局報道部ノ關係事務ヲ分離シ之ヲ以テ國際部ヲ設ケ昭和十四年七月一日ヨリ實施シタリ

(三) 編成部ノ所屬替

放送番組ノ編成ヲ掌ル編成部ハ從來業務局ノ外ニ在リタルモ其ノ所管事務ハ業務局ト密接不離ノ關係ニ在リ相互ノ連絡上之ヲ業務局内ニ移シ事務運行ノ圓滑ヲ期スル要アルヲ認メ昭和十四年七月一日之ヲ業務局ニ編入シタリ

(四) 京都放送局ニ放送係設置

京都放送局ハ全國中繼番組ノ編成比較的多キモノアル等ノ實情ニ鑑ミ之ニ放送係ヲ置キ昭和十四年十二月一日ヨリ實施シタリ

四

六、放送設備ノ擴張、改善

(一) 大電力放送施設

東京大電力放送施設ハ昭和十二年十二月ヨリ假使用中ノ處整備完了シ同十四年四月二十六日ヨリ正式使用ヲ開始セリ、又福岡並ニ大阪ニ空中線電力一〇〇キロワットニ重大電力放送所ヲ設置スルコトトシ之ガ施設計畫ニ就キ主務省ニ申請中ノ處昭和十三年一月及十四年十二月認可ノ指令アリ、目下孰レモ敷地選定中ニシテ放送機ハ十七年六月迄ニ完成ノ見込ナリ

(二) 小電力放送施設

昭和十二年度増設計畫ノ内

(イ) 青森福島郡山尾道防府松山大分ノ各放送局ハ目下局舎ノ建築工事見積手配中、放送機及非常用發電設備ハ全部製作済ニシテ鐵塔ハ本年五、六月迄ニハ各局共据付完了ノ豫定ナリ、尙山口市ニ防府放送局山口演奏所ヲ設置スルコトトシ右放送局局舎ト同時ニ施工ノ見込ニテ目下手配中ナリ

(ロ) 那覇豊原ノ各放送局ハ局舎ハ前同様、放送機、無線中繼設備及非常用發電設備ハ目下製作中

ナリ

(ハ) 五十ワット以下ノ放送中繼所ハ目下設置地ニ就キ主務省ニ認可申請中ナリ

(三) 放送設備ノ改善

放送會館ノ放送施設ハ昭和十三年度ヨリ引續キ調整試験中ノ處整備完了シ同十四年五月十三日ヨリ正式使用ヲ開始セリ

熊本及廣島中央放送局ノ改修ニ使用スベキ一〇キロワット放送機ハ技術局新郷分室ニ於テ組立中ノ處略完了シ次年度ニ於テ夫々現場取付ノ運ニ至レリ、又名古屋中央放送局ノ一〇キロワット第一放送機ハ從來外國真空管ヲ使用シ來レルモ之ヲ國産品ニ改ムルコトトシ既ニ改修ニ着手シ目下進行中ナリ、尙仙臺及札幌中央放送局ノ一〇キロワット放送機モ新郷分室ニ於テ組立ノコトトシ準備中ナリ

静岡、新潟、長野、濱松、岡山、松江、高知、小倉、秋田、函館ノ各小電力放送機ノ改修ハ一部新郷分室ニ於テ組立中他ハ準備中ナリ

七、放送狀況

支那事變ハ既ニ第二年ヲ送り時局ハ新東亞建設ヘノ新段階ニ入りタルヲ以テ、内外ノ情勢ニ照シ放送事業ノ荷フ使命ハ益々重大ヲ加フルモノアリ、依テ國內放送ハ各部門ニ涉リ全力ヲ擧ゲテ

五

輿論ノ統一、國民精神ノ昂揚ニ協力スルコトヲ期シ、又外地放送、海外放送ハ歐洲戰ノ勃發ト共ニ列強電波戰熾烈ヲ極メツツアル折柄其ノ陣容ヲ擴大強化シ、就中日滿支ヲ結ブラチオ網ノ充實ヲ計リ支那新中央政府成立ヲ機トシ三國間ノ親善友好ノ促進ヲ期シタリ

更ニ本年ハ輝シキ紀元二千六百年ヲ迎ヘラヂオ文化ヲ昂揚スル上ニ絶好ノ機會ナルヲ思ヒ放送全種目各部門ニ互リ歴史的躍進ヲ企圖シ、以テ國策ニ順應スルト共ニ一般國民生活ニ寄與貢獻セムコトヲ期シタリ

(一) 國內放送

(イ) 報道放送

前年ニ引續キ國策遂行ニ協力シ最善ノ努力ヲ致シタリ、即チ對外的ニハ國際部ト緊密ナル連繫ノ下ニ前線銃後ノ連絡ヲ圖ルト共ニ世界情勢ニ對スル國民ノ注意ヲ喚起シ、又支那新中央政府ノ成立ニ際シテハ軍ト協力特ニ職員ヲ派シ其ノ盛儀ヲ「ニュース」ニ實況ニ逐一放送シ、以テ日滿支三國ヲシテ友好善隣ノ實ヲ擧ゲシムル様企圖セリ、一方國內各般ノ施設ガ輸出ノ振興、物資ノ需給調整、物價安定等ヲ主眼トスル戰時經濟政策ニ集中シツツアルニ鑑ミ、之ニ協力シテ國民ノ時局認識徹底ヲ計ル等國策放送ノ重大ナル役割ヲ擔當セリ

一、一般「ニュース」本年度モ引續キ戰況「ニュース」ニ重キヲ置キタルガ之ヲ前年度ト比較セバ自ラ事變ノ推移ヲ反映セルモノアリ、即チ昨年度ニ於ケル臨時「ニュース」ハ戰局關係十三回、事

變竝ニ政局關係八回ナルモ本年度ニ於テハ宮廷關係一回、戰局關係五回、政局關係六回ヲ示セリ、其ノ中主ナルモノヲ擧グレバ昭和十四年四月七日平沼内閣ノ閣員補充、同六月二十一日汕頭附近敵前上陸竝ニ同完全占領、同六月二十四日舟山島敵前上陸、同八月二十八日平沼内閣總辭職、同九月十六日滿蒙國境停戰協定、同十一月十五日北海附近奇襲上陸敢行、昭和十五年一月十四日米内大將ノ參内竝ニ大命降下等アリ、又十五年二月十一日ノ紀元節ニ當リテハ畏クモ天皇陛下御仁慈ノ大御心ヨリ恩赦ノ大詔ヲ下シ給ヘルヲ以テ謹ミテ之ヲ臨時「ニュース」トシ廣ク國內ニ傳ヘ奉リタリ

二、特殊「ニュース」時局讀本「ニュース」解説子供ノ新聞等凡テ前年ト同ジク一般ノ時局認識涵養ヲ主眼トシ、産業「ニュース」ハ戰時體制下ニ於ケル重要性ノ増加ニ對處シ、十四年六月迄ハ週二回放送セルヲ同七月以降ハ休日ヲ除キ毎日放送ニ改メ、以テ産業ノ振興ニ資スルコトトセリ

三、實況及錄音放送 本期間中實況放送ハAKノミニテモ競技百二十六回、競景五十六回ヲ數ヘ其ノ他ノ各局亦之ニ亞グノ好成绩ヲ示シタルガ特ニ各地防空訓練ニ際シテハ軍ト協力シ警報傳達竝ニ實況放送ニ活潑ナル成績ヲ示セリ
一方錄音放送ノ活用ハ本期ニ特記スベキモノニシテ之ガ新種目トシテ生レタルモノニ季節感描寫ノ錄音ハイキング「週間」トビツクヲ傳フル「錄音リポート」時ノ人ヲ取扱ヘル「二分間對

話等アリ、各局トモ録音ノ活用ハ益々有望視セララルル所ナリ
(ロ) 教養放送

本年度教養放送ハ主トシテ國民各自ニ内外情勢ノ變化ヲ明確ニ認識セシメ不動ノ舉國的態勢ヲ誘導持續セシメンガ爲講演講座ヲ通シ其ノ人選形式内容ヲ工夫吟味セル所頗ル多シ就中時局ノ推移ニ伴ヒ「週間ノ動キ」時局談話ヲ新設シタルガ如キ其ノ具現ノ一ナリ又教養放送ノ企劃ヲ充實スル爲從前ノ委員會ニ家庭、兒童ノ二委員會ヲ加ヘタル外、投書ニ答ヘル放送ヲ實施シ聽取者ノ放送ヘノ關心ヲ促進スル所アリ、其ノ他週二回ナリシ「幼兒ノ時間」毎日トセル外學校放送ニ於テ低、高兩學年ヲ分割スル一方、中等學生ノ時間及「青年手帖」ノ時間ヲ設ケ青年層ノ常識涵養ト情操陶冶ニ資シタリ

今本期中臨時放送企劃ノ主ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

一、特輯講演

- 七月 「時局ノ重大化ニ處スル」特輯講演七日間 永田秀次郎氏外
- 九月 「日本ノ國際的地位ヲ語ル」四日間 安達謙藏氏外
- 十月 「時局ノ新段階ニ於テ國民各層ノ役割ヲ強調スル」特輯講演七日間 松井石根氏外
- 十一月 「青年ノ時間」特輯三日間 末次信正氏外
- 十二月 「時局經濟ニ關スル」特輯六日間 八田嘉明氏外

一月 「紀元二千六百年々頭講演」四日間 公爵近衛文麿氏外

二月 「紀元二千六百年所感五日間」小倉正恒氏外

二、農村講座、地方産業講座、十二月—三月 每週二回

地方産業ノ開發特ニ農産物増産ノ爲全國一齊ローカル放送實施

三、紀元二千六百年記念計畫

(一) 日本文化講座、日本女性文化講座、重要史蹟めぐり、神社めぐり、山陵めぐり

(二) 紀元二千六百年小國民奉祝唱歌、同童謡ノ懸賞募集及唱歌、コンクールノ學校子供ノ時間

ヘノ利用

(三) 國史劇—重要史實ヲ劇化シ學校放送ニ送出

四、精動特報—週二回全國放送ニ實施

國民精神總動員運動ニ關シ中央ノ訓令、指令ヲ地方當事者及一般ニ傳達スルモノ

五、健康講座—春夏二季ニ於テ語學講座ニ代リ實施

以上ノ他毎月一日ニハ興亞奉公日訓話ヲ放送シ又出征家族ノ夕「前線將士ノ夕」銃後後援ノ夕「婦人從軍ノ夕」等ニ際シテハ適切ナル講演ヲ組入ルル等全番組ヲ通ジ一貫シテ國策ノ推進ニ資スベク之ガ企劃ヲ按シ夫々實施スル所アリタリ

(ハ) 慰安放送

長期建設ニ備フル銃後國民ノ慰安トシテ時局問題ノ劇化乃至演藝化等ニ依ル解明等ヲ企劃實施スルノ外、放送會館ノ竣工ト相俟チ放送獨自ノ藝術性完成ヘノ志向、即チ聲優ノ養成、有能作家ノ發見竝ニ提携、或ハ紀元二千六百年ヲ機トスル「ラヂオ」國民演劇、國民音樂ノ樹立等々ノ機運ヲ醸成スルコトニ努メタリ、其ノ具體的發足トシテ局舎完成記念募集ノ形式ニ依ル放送文藝ノ新領域開拓ヘノ努力、又紀元二千六百年奉祝會トノ協同ニ依ル奉祝國民歌ノ制定、協會ニ於ケル管絃、吹奏兩樂曲、國民歌謡ノ歌詞作曲ノ公募及國史劇、邦樂組曲ノ委囑制作等頗ル多彩ナル活動ヲ示セリ、一方日本放送交響樂團ヲ主トシテ放送内容ノ充實ヲ企圖シ、又古俚謡乃至民謡ヲ主題トセル管絃樂ヲ計畫、新進邦人作曲家數氏ニ依頼シテ「國民詩曲」ヲ編成シ之ヲ放送セリ、更ニ合唱放送ノ進歩ヲ計ランガ爲、公募ニ依リ日本放送合唱團ヲ結成シ、銳意訓練ヲ施シタルガ其ノ實績見ルベキモノアリ、又近時急激ナル普及發達ヲ來セル各種團體ノ吹奏樂團ニ對シ積極的援助ヲ與ヘ、之ガ向上ヲ企圖シ二百餘名ニ及ブ大集團ニ依ル放送ヲ實現シ、良成績ヲ收メタルガ尙戰時下ノ特輯番組タル「傷病將士慰問演藝」ハ更ニ各地ニ擴大充實ヲ計リタリ

(三) 放送番組ノ編成

從來放送番組ハ第一、第二放送番組ノ名稱ヲ以テ區別シタルモ十四年七月ヨリ番組ノ編成態樣ヲ變更スルト共ニ特ニ第二放送番組ヲ擴充シ、第一ヲ全國、第二ヲ都市番組ト改稱シ、前者ハ全國向ニテ内容ハ大衆的ノモノヲ、後者ハ東京、大阪、名古屋ノ三局中繼ヲ主トスル都市向ノモノヲ編

成スル方針ニ改メタルガ、更ニ時局ノ進展ト共ニ放送内容ノ重要性ヲ再吟味シ、十四年七月以降時局放送企畫協議會ヲ設置シ各部局ノ提案ニ基キ監督官廳内閣情報部ト共ニ毎月ノ番組編成方針ノ大綱ヲ決定スルコトトシタル外、是等中央ニ於ケル編成方針或ハ諸計畫ヲ各地方局ニ徹底セシムル爲、十四年六月以降編成情報ヲ刊行シ之ヲ各局ニ配付スルコトトシタリ、其ノ他主ナル事項トシテハ放送開始竝ニ終了ノ際「コールサイン」ノ「アナウンス」ヲ十四年七月一日ヨリ廢止シ「オルゴール」ヲ以テ之ニ代ヘ、又十五年二月一日以降全國都市兩放送ノ開始竝ニ終了、學校放送、幼兒ノ時間、儀式等ニ於テ各特殊レコード音樂ヲ送出スルコトトシタル外、十四年六月ヨリ毎日曜午後七時ノ「ニュース」ニ引續キ文部省推薦圖書ノ時間ヲ新設シ、良書ヲ廣ク一般ニ紹介スルコトトシタリ

(二) 國際放送

本年度國際放送ハ十四年八月下旬突發セル獨波紛爭ト其ノ全歐ヘノ波及ニ伴ヒ一層重要性ヲ加ヘ來リタルガ、今本期中ノ國際放送ヲ概觀スレバ、十四年五月一日、同三十日ノ兩日訪日獨逸新聞使節團長ウインケル、ケンパー氏外ノ全獨逸ニ對スル「事變下日本ノ現狀報告」ヲ送出、降ツテ同七月十六日ニハ米國ミユチュアル放送會社特派員バトリツクスミス氏ノ「日本ノ印象」ト題スル對米國際放送ヲ傳ヘ、又獨蘇不可侵條約ノ締結ヲ見ルヤ米國C.B.S. N.B.C. 兩放送會社ノ希望ヲ容レ、十四年八月二十六日米國C.B.S. 東京駐在員W.R. ウェルス氏ニ依リ對米C.B.S. 放送網ヘ、同月二十九日

ニハ「ジヤパンアドヴァタイザ」記者ニユートンエドガース氏ニ依リ對米N.B.C放送網へ夫々「日本ノ反響」ヲ國際放送セリ

更ニ歐洲動亂ノ進展ニ連レ各國放送戰ハ愈々白熱化セルヲ以テ協會ニ於テモ十四年九月一日、全歐ヲ震撼セル獨軍ノ「ポーランド」進撃ニ關スルヒットラー總統ノ獅子吼ヲ國際放送スルト共ニ、九月四日早朝ニハ英帝ジョージ六世陛下ノ對獨宣戰布告ノ世界放送ヲ全國内ニ錄音放送シ事變下ノ我國民ニ多大ノ感銘ヲ與ヘタルガ、尙九月三日伯林ヨリ江尻進氏同六日紐育ヨリ荻原忠三氏竝ニ倫敦ヨリ長谷川才次郎氏等各駐在同盟支局長ノ各國現地ヨリ見タル生々シキ歐羅巴情勢ヲ全國内ニ放送シタリ、次デ同年十一月三日ニハ「ワシントン」ヨリ駐米大使堀内謙介氏ノ時局講演「米國ニ於ケル歐洲情勢」同四日ニハ桑港ヨリリスボン公使館書記官柳澤健氏及野上彌生子氏ノ「歐洲情勢雜觀」又十五年二月二十七日ニハ折カラ訪日中ノ亞爾然丁經濟使節團ヲ迎ヘ日亞交驛放送ヲ實施シ優秀ナル成績ヲ收メタリ

尙特記スベキハ十四年五月十三日ヨリ三日間放送會館ノ落成ヲ慶祝シ英獨伊竝ニ米コロムビア、ナショナル兩放送會社ヨリ各祝賀音樂ヲ送出セシメ、絢爛豪華ナル世界電波ノ親善譜ヲ現出シ我國放送史ニ一異彩ヲ放チタリ

以上本年度實施シタル國際放送ハ何レモ送受信共極メテ良好ニ行ハレ豫期以上ノ成果ヲ收メタルガ、今本年度ニ於ケル國際放送實施回数竝ニ相手國別送受信回数ヲ示セバ左ノ如シ

放送回数

二四回

送受信 二回

内譯

送信 七回

受信 十五回

相手國別送受信回数

國別	送信	受信	送受信	國別	送信	受信	送受信
亞米利加	四	七	〇	伊太利	〇	一	〇
獨逸	二	四	〇	泰	一	〇	〇
英吉利	〇	三	〇	合計	七	一五	二二
亞爾然丁	〇	〇	二				

(三) 海外放送

本期ニ入り時局ノ複雑化ト國際戰時色ノ濃化ニ連レ益々増大スル對外宣傳ノ必要ニ對應スル爲十四年七月一日ヨリ放送時間ニ於テ二時間ヲ増加計八時間トシ使用國語ニ於テ伊泰兩語ヲ加ヘ計十ヶ國語トセル外種目ニ於テモ毎週金曜日ノBK送出ニ依ル北米西部向放送中十分間ヲ阪神地方在任米人竝ニ米國ニ特別關係深キ邦人ノ講演ノ時間ニ、又毎週水曜日ニ在京第二世ニ依ル

講演ト音楽ノ時間等ヲ新設シタリ

一方南米、北米西部及南洋ノ三方面ニ時事問題解説ナル種目ヲ創設シ海外同胞ニ混迷セル世界
状態ノ下毅然タル祖國ノ真相ヲ傳へ、他面日本文化ノ顯揚ノ爲ニハ歐洲並ニ北米西部ニ向ケ英語
ニ依ル日本語講座ヲ開設シタル外、改善事項トシテハ從來比較的區々ナリシ各國語「ニュース」ニ有
機的統一ヲ與ヘ以テ本放送ノ眞使命遂行ニ遺憾ナキヲ期シタリ

尙本年度ヨリ國內一般ニ海外放送ニ對スル認識ヲ深カラシムル爲日曜祭日ノ晝間北米西部向
ノ放送ノ一部ヲ國內全國放送トシテ同時送出ノコトトセリ、而シテ是等海外放送ノ聽取報告ハ事
變勃發當時一時激減ヲ示セルモ近來復又増加ヲ見、本年度世界各地ヨリノ聽取報告總計ハ實ニ二
萬二千二百餘通ノ多數ニ上リ、其ノ反響ノ大ナルコトヲ如實ニ示セルガ、尙海外聽取者ノ普及ヲ計
ル爲八ヶ國語ヲ以テスル海外放送豫告番組ヲ編輯印刷シ毎月二萬二千部ヲ海外各地ニ配布スル
コトトシタリ

(四) 北支及中支トノ連絡放送

本年度ノ連絡放送ハ北中支ニ於ケル東亞新秩序建設ノ進展並ニ支那新中央政府成立ヘノ動向
ヲ傳ヘ現地トノ緊密性ノ昂揚ニ資シ來レルガ一面現下ノ最大關心事タル皇軍ノ戰果及前線便り
等ヲ講演錄音或ハ實況放送ニ依リ入中繼セリ、而シテ入中繼番組中主ナルモノヲ舉グレバ十四年
四月十八日蒙疆ノ近況ニ就テ、張家口ヨリ蒙疆聯合委員會關口保顧問、同四月二十一日ニハ武漢特

別市成立ニ就テ張市長ノ講演、同六月二日ニハ上海ヨリ「事變下ニ於ケル上海租界ニ關シ馬淵軍報
道部長ノ談、同月二十七日ニハ世界注視ノ的トナレル天津問題ニ關シ「租界問題ノ經緯ニ就テ」天津
田代總領事ノ現地講演ヲ送出セリ

他ニ現地ヨリノ主ナル放送ヲ列擧スレバ

一、記念講演トシテハ

十四年七月四日北京ヨリ「現地聖戰二周年ヲ迎ヘテ」濱田北支軍報道課長

同八月十二日上海ヨリ「上海戰勃發二周年ヲ迎ヘテ」上海陸戰隊 穴戶司令官

同十二月十三日南京陥落記念日「更生ノ南京ヨリ」南京特務機關池田補佐官

一、現地戰線便りトシテハ

十四年八月二十三日南京ヨリ「故郷ノ老父母ヘ」近藤軍曹

同十一月四日上海ヨリ「現地將兵ノ便り」

一、新中央政府成立ニ關スル番組トシテハ

十五年二月二日上海ヨリ「青島會談ト新中央政府」東日上海支局長田知花信量氏

同二月六日上海ヨリ「現下ニ於ケル日支間ノ根本問題ニ就テ」馬淵軍報道部長

同三月八日「新中央政府ト重慶」三浦讀賣新聞中文總局長

同三月二十三日南京ヨリ中山陵下國際記者會懇友會場ニ於ケル和平建國ニ關スル汪派宣傳部

員ト記者團トノ對談實況

右ノ外同三月三十日ニハ、南京中山陵下大禮堂ニ於ケル國民政府還都及院府部會各長官就職典禮實況ヲ中繼シ、又同夜南京東京ヲ電波ニ結ビ新中央政府成立慶祝交驩放送ヲ實施シ米内總理大臣及汪主席代理ノ挨拶ヲ夫々中繼放送セリ

尙國內放送番組中前線ト銚後便リ「皇軍慰問ノ夕」大相撲實況ノ現地各局ヘノ放送ハ前線皇軍將士ニ力強キ慰安ヲ與ヘタリ

(五) 臺灣朝鮮及滿洲國トノ連絡放送

外地放送ハ全國番組ヲ定時的ニ毎日短波ニ依リ送出シ臺灣朝鮮滿洲國ノ各地放送局ニ中繼スルト共ニ各局ヨリハ新東亞建設ノ大業ニ實踐協力シツツアル現地狀況ヲ中繼シ以テ大陸發展ノ様相ヲ全國ニ如實ニ傳フベク企圖シタリ

滿洲國ヨリハ主トシテ大陸建設大陸開拓ノ實情ヲ講演報告乃至實況等ノ形式ニ依リ入中繼セリ、即チ十四年五月二十一日哈爾濱ヨリ「拓地素描」ト題シ天理村哈爾濱青年義勇隊訓練所ノ實況ヲ、同五月二十六日ニハ東滿洲圖佳線沿線第六次龍爪開拓團ノ活動情況ヲ「開拓村ノ朝」トシテ中繼、八月二十二日ニハ新京ヨリ勤勞建國奉仕隊現地報告ヲ降ツテ同十月十九日ニハ再ビ龍爪拓地ヨリ「拓地ニ聽ク」ヲ中繼セリ

其ノ他十四年五月二日訪日宣詔記念日ニ當リテ滿洲國々務總理張景惠氏ノ記念講演、同七月二

十四日ニハ滿洲國協和會創立第八周年記念日ニ際シテ同會本部長橋本虎之助氏ノ講演等アリ、又同年九月十五日ニハ滿洲國承認記念日特輯番組ヲ編成、同九月十八日滿洲事變記念日ニハ韓經濟部大臣ノ記念講演、同十月二十一日ニハ滿鐵一萬籽達成ヲ記念シ滿鐵總裁大村卓一氏ノ記念講演ヲ中繼セリ

尙臺灣朝鮮ヨリハ各地ニ於ケル國民精神總動員運動ニ關スル活動狀況ヲ主トシ加フルニ各地特殊産業ノ現況ヲ入中繼シ、時局下國民生活ノ緊張ニ資スル所アリタリ

(六) 内地ニ於ケル主ナル放送

以上ノ外内地ニ於ケル主ナル放送ヲ舉グレバ左ノ如シ

(イ) 靖國神社臨時大祭招魂式實況

昭和十四年四月二十三日、同十月十七日靖國神社臨時大祭招魂式執行ニ付之方實況ヲ全國ニ放送セリ

(ロ) 國民精神總動員強化大講演會中繼

同年四月十二日國民精神總動員中央聯盟主催ノ下ニ日比谷公會堂ニ於テ行ハレタル有馬聯盟會長平沼首相等ノ講演ヲ全國ニ中繼セリ

(ハ) 放送會館落成式記念番組

同年五月十三日ヨリ三日間放送會館ノ竣工ヲ記念スル爲各界一流者ヲ網羅シ豪華特輯番組ヲ

編成セリ

(三) 全國學生生徒御親閱實況放送

同年五月二十二日全國大學專門中等學校ノ軍事訓練實施十五年記念日ニ當リ全國各校代表ヲ御親閱アラセラレタルヲ以テ之ヲ全國ニ中繼セリ

(ホ) 百億貯蓄強調週間

同年六月十五日ヨリ一週間政府ノ提唱ニ依リ催サレタル同週間ニ協力シ石渡藏相其ノ他ノ講演或ハ之ニ因ム演藝等ヲ送出セリ

(ハ) 戦歿者遺兒ニ對スル御下賜品傳達式實況

同年八月六日靖國神社ニ參拜ノ爲各府縣派遣ノ全國戦歿者遺兒ニ對シ 皇后陛下ヨリノ御下賜品傳達アリ其ノ式典狀況ヲ中繼シ有難キ御思召ヲ全國ニ傳ヘタリ

(ト) 明治神宮國民體育大會天覽競技實況

十四年十一月二日行ハレタル明治神宮國民體育大會ハ本年新ニ厚生省所管トナリ聖戰下體育ノ獎勵愈緊要ナルノ秋 天皇陛下ニハ會場ニ臨御親シク競技ヲ天覽アラセラレタルヲ以テ其ノ盛況ヲ全國ニ中繼セリ

(チ) 放送番組ニ關スル座談會

同年十二月四日聽取者ノ放送ヘノ關心ヲ深メ且兩者間ノ連繫ヲ緊密ニスル意味ニ於テ聽取者

代表二名ヲ選ビ一般聽取者ヨリノ投書ニ答フル協會當事者側トノ座談會ヲ放送セリ

(リ) 紀元二千六百年紀元節特輯番組

十五年二月十一日ノ紀元節當日早朝高千穂峰ヨリ御來迎實況霧島神宮ヨリ紀元二千六百年式典實況極原神宮ヨリ紀元節祭實況ヲ放送セル外當夜ヨリ向フ一週間奉祝特輯番組ヲ編成セリ

(七) 年度内ニ於ケル放送回数及時間

(イ) 放送事項別自局編成放送回数

區別	報 道		講 演		子 供	時 間	放 學	校 送	國 際	實 況	音 樂	演 藝	雜	計
	全 國	都 市	全 國	都 市										
東京中央放送局	一、三六〇	三、四九	一、八六〇	一、四七〇	九	六三〇	六三	六	四	一四七	六四	五五	二、九三	三、二二
長野放送局	一、四七		二二	二二	七	二七				一五	四七	二	一七九	一、八七
静岡放送局	二、〇七		二二	二二	五	三三				一〇	三六	八	四三	二、七二
新潟放送局	三、三五		一四	一四	一〇	一九				二	三九	九	三三	三、七六
濱松放送局	一、八六		七〇	七〇	四	二二				八	六	二四	八五	二、一六
甲府放送局	一、九三		七〇	七〇	三	四				二	六	一三	九	二、一四
松本放送局	五		三	三	二	一八				三	三	八	三	三三
大 阪	八、七四		六六	六六	五	三六	三	三	三	三五	三六	三五	五五	二、五五

局名	全國放送		放送市
	放送	局	
中央放送局	七六六	三三三	一〇〇
岡山放送局	三、五八八	八一	六
京都放送局	一、八〇〇	三六九	三〇
德島放送局	一、七九〇	六九	六
鳥取放送局	一、三九七	六四	三
名古屋中央放送局	六、八〇一	三三七	九
金澤放送局	四八七	一三六	五
福井放送局	三、三三三	一四九	三
富山放送局	二、六〇一	九三	八
廣島中央放送局	六、六九六	三三三	三
松江放送局	三、三三三	一三四	一〇
高知放送局	二、七九一	五〇	二
熊本中央放送局	三、一六六	六	九
福岡放送局	三、八六一	一八	六

小倉放送局	一、四七七	五四	六四	三	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
長崎放送局	一、六六六	一〇五	四〇	九四	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
鹿兒島放送局	一、五二四	九三	三七	八八	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
宮崎放送局	一、五五五	八九	三三	充	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
仙臺中央放送局	四、九七七	三五四	六〇	八三	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
秋田放送局	二、九二一	一五	四	六	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
山形放送局	二、九九五	一三	三	四	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
弘前放送局	三九	六	三	三	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
盛岡放送局	二、〇四五	九	元	三	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
札幌中央放送局	四、一五九	三三	五	八	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
函館放送局	一、四六三	三九	三	三	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
旭川放送局	一、三五四	四〇	三	一〇	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
帯廣放送局	一、三六三	三	三	八	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
釧路放送局	三七七	六	一七	一三	—	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八
合計	一〇七、二一九	八、二九五	二、五九九	二、六六三	八五	七六九	三、九六一	一、五四九	二、四四六	一、三六八

(二) 放送事項別自局編成放送時間

區別	報 道		講 座	演 劇	時 子	供 小	學 校	放 國	際 送	實 況	音 樂	演 藝	雜	計
	全 國	都 市												
東 京	一、五三三	六五三	六七一	一三三	一三三	二二〇	二〇五	九二	三九一	二六八	二九三	五九三	三、七〇三	
中 央	三八三	六七四	四一五	一三三	一三三	—	—	—	—	—	—	—	—	
長 野	六八一	四一五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
靜 岡	一〇八四	三九四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
新 潟	一八三六	四四四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
濱 松	七八五	三三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
甲 府	七八四	三三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
松 本	二一八	一五二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
大 阪	八三五	二四三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
中 央	三七五	七三二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
岡 山	一六〇	二九三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
京 都	一三五	一三五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
德 島	七〇三	二五五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

區別	報 道		講 座	演 劇	時 子	供 小	學 校	放 國	際 送	實 況	音 樂	演 藝	雜	計
	全 國	都 市												
鳥 取	六四〇	三三八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
名 古 屋	六六三	二二四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中 央	二七四	五〇三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金 澤	二七三	五三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福 井	二〇七	三七五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富 山	一〇三	三三七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
廣 島	五五八	一〇八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中 央	一四六	四三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
松 江	一〇七	一六五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
高 知	一四〇	一三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
熊 本	一四〇	三三九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福 岡	四三九	三九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小 倉	六〇六	一七五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長 崎	七五五	三三二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿 兒 島	七三四	二九六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮 崎	七〇五	二九三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

區別	自局編成		入中		回數計	
	回数	時間	回数	時間	回数	時間
仙臺中央放送局	一八九三	九三〇	一七二	三三五	—	—
秋田放送局	八四三〇	四二七	一四五二	一〇五八	—	—
山形放送局	一二三三	四四八	九四八	一三五三	—	—
弘前放送局	一一二五	三四九	六五八	八二五	—	—
盛岡放送局	七八五六	三四二	九〇五	九五〇	—	—
札幌中央放送局	三三六二五	八〇一	一九三〇	二七五	—	—
函館放送局	五〇三二	二四二	九五七	三三三	—	—
旭川放送局	四三〇〇	二〇六	九五	二三五	—	—
帶廣放送局	四〇九	六三二	六三二	一三七	—	—
釧路放送局	一六八	二五	五五	四〇〇	—	—
合計	七、二七二	二、九五五	六九五	八七五	一、五二〇	一、一四三〇

(八) 局別自局編成並ニ中繼放送回数及時間

區別	自局編成		入中		回數計	
	回数	時間	回数	時間	回数	時間
東京中央放送局	三、二二	三、七〇三	一、八九	一、八九	三、九一〇	四、二九〇
合計	六、九八	一、九〇六	六九四	三六〇	七、六八二	二、三二〇

區別	自局編成		入中		回數計	
	回数	時間	回数	時間	回数	時間
長野放送局	一、八七	一、六五八	一八、七三	四、一五七	二〇、一六〇	四、二九〇
静岡放送局	二、七二	二、九二	二〇、七四六	四、一六三	三、四一七	四、三八三
新潟放送局	二、七六	三、四一〇	一八、一五	四、一八三	二〇、八七五	四、三六三
濱松放送局	二、一五	一、九七	一八、九六六	四、〇六〇	二一、一三一	四、二〇五
甲府放送局	二、一四三	一、六〇五	一八、三三	四、〇八三	二〇、三三五	四、三三〇
松本放送局	三三六	五〇九	一九、八七九	四、三三五	二〇、一七	四、二八七
大阪中央放送局	一一、五五	一、五七四	一一、九一七	二、八九七	三三、四五三	四、四七二
岡山放送局	一、五五	四、九三〇	四、七七九	一、六六三	六、三三三	二、一五五
京都放送局	三、七〇	二、四三三	三三、〇六三	四、三四三	三五、七六四	四、五五七
徳島放送局	二、三七八	三、四三〇	三三、二七四	四、四六二	三四、六五三	四、八〇九
鳥取放送局	一、九五	一、四四五	二〇、三三三	四、三四九	三三、三三三	四、四三九
名古屋中央放送局	一、四四	一、一〇三	二二、八三八	四、四〇〇	三三、二八	四、五〇四
金澤放送局	七、七七	九、七〇五	一三、三五四	三、三六二	二二、〇四一	四、一九二
合計	八〇五	三、五三六	五、八八四	二、〇五四	六、六八九	二、三六一〇

福井放送局	二,五八八	三,〇四二	一九,一三四	四,一四三六	三,二六九三	四,三五四〇七
富山放送局	三,三三八	三,三五四	一九,〇三四	四,一四七三	三,三六三	四,三六九一七
廣島中央放送局	七,八九七	八,四一〇	一四,三六五	三,五七三三	三,三六三	四,四一五四
松江放送局	三,〇四三	三,九一四	一八,三七九	四,一五〇一	三,一四二	四,四一六四四
高知放送局	四,〇七五	三,四八五	一八,四八七	四,一七七七	三,三五六	四,四一六四一
熊本中央放送局	三,八〇七	三,六一五	一六,九〇六	四,〇七二	三,〇七三	四,一七九三〇
福岡放送局	四,六三八	六,三三五	一五,六六四	三,六八五七	三,〇三三	四,三二五四
小倉放送局	一,九六七	一,四八五	一八,〇九〇	四,一三〇七	三,〇七七	四,一七〇〇五
長崎放送局	二,三八八	一,九三七	一八,〇八一	四,二七三八	三,〇六九	四,三三三五
鹿児島放送局	二,一五五	一,八五〇七	一八,三五五	四,一八〇四	三,〇五〇	四,三六五一
宮崎放送局	二,一五三	一,六五四七	一八,三八七	四,一五三七	三,〇五九	四,三九一三四
仙臺中央放送局	六,〇五六	四,四〇〇	一七,一〇四	三,九六三五	三,一六〇	四,三六六三五
秋田放送局	三,六六三	一,八三〇	一九,〇七	四,一四三六	三,三六九	四,三三〇六
山形放送局	三,三六四	二,五〇〇	三〇,〇六	四,一八三三八	三,三三〇	四,三九七八
弘前放送局	三,八七	六,四〇〇	三〇,三九	四,三三〇〇	三,〇七六	四,三九三〇〇

盛岡放送局	二,三九三	一,六三三	二〇,一七四	四,三三〇七	三,一四七	四,三八四三九
札幌中央放送局	四,九五六	四,三三二	一六,六六五	三,九五三三	二,一五七	四,〇四四五四
函館放送局	一,六六六	一,一〇五	一九,六三〇	四,二四〇〇	三,一四六	四,三八三五三
旭川放送局	一,四九一	八,一〇	一九,八一〇	四,三九四八	二,一〇一	四,三七八五八
帯廣放送局	一,三三八	七,四七七	二〇,三三六	四,三九七五	二,一五七	四,三三三五
釧路放送局	三,六四	四,一四	二〇,三九〇	四,三六三八	二,〇七五	四,三九九五
合計	一三六,四五五	一六,七三三	六四六,一六	一四三,三八〇九	六四,五八三	一五九,五二三

八、聴取加入者数及其ノ異動

事變以來聴取加入ノ成績ハ好調ヲ持續シ來リタルガ、本年度ハ更ニ一段ノ飛躍ヲ示シ、新規加入ノ許可數ハ實ニ九十九萬六千六百三十四ニ達シ、創業以來ノ記録的數字ヲ示シタリ、廢止數ハ二十九萬九千八百五十六ヲ算セルモ前年度ニ比シ僅ニ二千九百五十六ノ増加ニ過ギズ廢止率ノ低下頗ル顯著ナルモノアリ、又許可數ヨリ廢止數ヲ差引キタル純増加數ハ六十九萬六千七百七十八ニ及ビタルガ此ノ加入増加數ハ十三年度ニ比シ十一萬五千餘、十二年度ニ比シ一萬七千餘、事變前ノ十一年度ニ比シ二十一萬四千餘多ク、滿洲事變勃發當時ノ六年度ニ比シ實ニ二倍半ニ相當セリ、斯ノ如ク本年度聴取加入ノ異常ナル増加ノ原因ハ、一面軍需景氣ニ伴フ一般購買力ノ増大殊ニ

股賑工業地帯ノ活況ト農山漁村鑛山地方ノ好景氣ニ依ル所尠カラザルモ他面ニハ放送用私設無線電話規則ノ改正ニ伴フ聴取者負擔ノ輕減事變下ニ於ケルラチオノ使命達成ヲ期シテノ放送内容ノ改善充實ラチオ普及運動ノ徹底各地供電業者ラチオ商トノ協力ニ基ク聴取開發不法聴取取締ノ勵行雜音及高音自肅ノ周知特殊サービス施設ノ擴充等亦直接間接ニ加入増加ヲ誘發セシメタルモノト云フコトヲ得ベシ

本年度末現在加入者數及其ノ異動狀況ヲ示セバ左ノ如シ

(一) 年度末現在聴取加入數

所轄管別	聴取加入數	有内		世帯數	百世帯當普及率
		料	無料		
直轄管内	一、六二、〇四七	一、八八、七七一	一〇〇、三六六	四、三三、三七〇	四六・〇
大阪中央放送局管内	一、三五、〇九五	一、二五、七七五	七、三三〇	三、〇三、九九〇	四・一
名古屋中央放送局管内	四九三、七六四	四七七、九六六	三三、七六八	一、五八、九四〇	三・八
廣島中央放送局管内	三三八、六六一	二九七、八六六	三〇、八六五	一、三三、八四〇	三・九
熊本中央放送局管内	四六七、三三〇	四四七、六六六	一九、六三四	二、〇四、六七〇	三・八
仙臺中央放送局管内	三〇九、五七七	一九三、〇三五	一七、四九三	一、二九、〇五〇	一七・三
札幌中央放送局管内	一五、七三三	一四、一六三	八、五五〇	五七、四七〇	二七・三
總計	四、八六、一三七	四、五四、三五三	二七、八八五	一四、〇八、三三〇	三四・五

備考 世帯數ハ昭和十三年十月一日ノ推計人口ニ基キ算出シタルモノトス
(二) 年度内聴取加入數増減及移動狀況

所轄管別	新規加入		廢止		轉移		出	差	引	新規受持増加
	加入	廢止	差	引	入	轉				
直轄管内	三七四、九五五	九、八七三	二七五、〇八三	七、三三五	六、一八四	一、四五一	二七、五三三			
大阪中央放送局管内	三四、八三九	八九、三五〇	一五、五七九	五、〇五〇	七、三三四	△三、一九四	一五、三八一			
名古屋中央放送局管内	八九、六五五	三、三三一	六、三四四	三、一三三	二、九六六	二〇七	六、五五一			
廣島中央放送局管内	八三、四四五	二四、六九	五、八六六	三、一五六	二、七七一	三六五	五、九三二			
熊本中央放送局管内	一一、九〇七	三〇、八三〇	八、〇七七	二、五六六	二、五四三	四	八、一三〇			
仙臺中央放送局管内	四九、五七七	一三、一九六	三、五六九	一、五三二	一、五六六	△五	三、〇五〇			
札幌中央放送局管内	四、〇四六	一三、七六五	三、三六一	六、七六	八八三	△二〇七	三、〇五三			
計	九六、六三四	二九、八五六	六九、六七八	三三、七五七	三四、一三七	※三七〇	六六、四〇八			

備考 △印ハ轉出數ノ轉入數ヲ超過セルヲ示ス

※印三七〇ハ移動處理未済分ノ繰越數トス

九、放送聴取規約ノ改正

放送用私設無線電話規則ノ改正ニ依リ當協會ノ聴取規約ハ逕信省ニ於テ告示セララルコトト

ナリタルヲ以テ同規則中ノ規定ト同趣旨ノ條項ヲ聽取規約中ヨリ除キタル外左ノ如ク改正シ昭和十四年十一月一日以降之ヲ實施セリ

(イ) 聽取施設出願ノ際ノ許可料ハ特殊ノ事由アルモノヲ除キ當協會ニ於テ負擔代納スルコトトセリ

(ロ) 聽取施設許可當月ノ聽取料ニ付下半年分ノ半額徵收ヲ廢シ日數ニ拘ラズ總テ定額五十錢ヲ徵收スルコトトセリ

(ハ) 聽取料ノ徵收方法ノ原則ヲ毎月集金ニ改ムルト共ニ郵便集金地域ノ聽取者ニ對スル請求ノ期別ヲ廢シ順次六月分ヲ其ノ初月ニ請求シ得ルコトトセリ

(ニ) 廢止等ノ場合既納聽取料ニ剩餘アルモノノ還付ニ付テハ三月以内ノ請求ヲ條件トシタルヲ六月以内ノ請求ニ改メタリ

(ホ) 聽取契約ヲ解除シ得ル範圍ニ聽取料ノ減脫ヲ圖リタル者ヲ加ヘタリ

(ヘ) 放送内容ノ寫調等ニ付承諾ヲ要スルモノトシタル範圍ヨリ相當著作權ヲ有スル者ノ許諾ヲ得タル場合ヲ除キタリ

一〇、契約及料金事務取扱方法ノ改正統一

聽取料金ノ徵收方法ハ從來各所轄局ニ依リ其ノ取扱ヲ異ニシタルモ事務ノ簡捷ト能率及經濟

性ノ増進ヲ圖リ併セテ定員ノ算定事務監査ノ便宜ヲ考慮シ之ヲ全國一律ニ規定スルヲ適切ト認メ新ニ料金事務取扱規程ヲ制定シ昭和十四年十月六日ヨリ施行セリ

又契約事務取扱ニ就テモ各所轄局ニ依リ多少區々ノ取扱アリタルヲ統一是正シ新ニ聽取契約事務取扱規程ヲ制定シ昭和十四年十一月一日ヨリ施行セリ

一一、聽取料金免除範圍ノ擴張

昭和十四年度中ニ於テ聽取料金免除ノ範圍ヲ擴張シタルモノ左ノ如シ

- (イ) 今次事變ノ軍人軍屬ノ遺族死歿シタル軍人軍屬ヲ死歿ノ當時同一家族ニ有シタル者ニシテ軍事扶助法ニ依リ扶助セラレツツアル者及軍事扶助法ニ該當セザルモ聽取料ノ支拂困難ナルコトヲ市町村長等ニ依リ證明セラレタル者ノ聽取施設ニ對シテハ聽取料金ヲ免除スルコトトシ昭和十四年四月一日以降之ヲ實施セリ
- (ロ) 當協會ノ指定ラヂオ相談所ノ聽取施設ニ對シテハ其ノ指定業務ノ性質ニ鑑ミ特ニ聽取料金ヲ免除スルコトトシ昭和十四年十二月一日以降之ヲ實施セリ

一二、非常災害罹災者ニ對スル聽取料免除

昭和十四年度中ニ於テ非常災害罹災聽取加入者ニ對シ聽取料ヲ免除シタルモノ左ノ如シ

地	域	年月日	種類	免除期間	免除者數
秋田縣南秋田郡船川町外二町八ヶ村		昭和 一四、五、一	震災	五月以降三ヶ月間	六九二
廣島縣甲奴郡吉野村		〃 一四、六、	旱害	六月以降八ヶ月間	二七
宮崎縣宮崎郡清武村		〃 一四、一〇、一六	水害	十月以降三ヶ月間	三一一
静岡市		〃 一五、一、一五	火災	一月以降五ヶ月間	三、三五一

一三、ラヂオ體操の會

本年度ラヂオ體操の會ハ昨年同様政府ノ國民精神總動員運動ニ即應シ國民心身鍛鍊期間トシテ例年通八月一日ヨリ同月二十日迄全國的ニ實施シタルガ官民各關係團體ノ一致協力ト銑後國民一般ノ體位向上熱トニ依リ別表ニ見ル如キ實績ヲ收メ、昨年度ニ比シ一般會場數六千四百九十九箇所、工場鑛山會場數千五百七十八箇所、一般參加人員延五千五百三十二萬二千七百二十七人、工場鑛山參加人員延七百六十七萬三千三百十人ヲ増加シ未曾有ノ好成绩ヲ收メタリ

本年度ラヂオ體操の會參加人員全國概況

市	類別	會場數	參加人員			計
			男	女子	兒童	
部		八、八三二	一四、五九、三三〇	一〇、四四、二一七	五、四八、三六九	六、四五、七〇六

郡	工場、鑛山	部	參加人員			總計
			男	女子	兒童	
		一四、一七	八、三九、六七	六、二六、六九	三、一八、六二	一〇七、〇五、一八七
		五、四〇五	二、五〇、八五	一、六四、五五	三、五、五八	三三、四四、九〇
		三六、四三三	三三、三〇、一〇六	二八、一六、三九	一四、九八、四九	三〇九、五〇、八八三

一四、事業ノ周知宣傳

放送事業ノ重要性ニ對スル一般ノ認識ヲ強化シ全國的ニ新規聴取加入者ノ開發獲得、廢止防止等ヲ圖ル爲メ逕信省並ニ關係諸官廳ノ協力ノ下ニ昭和十四年十一月下旬ヨリ同十五年三月末日ニ至ル間ヲ第二回ラヂオ普及運動期間トシ此ノ期間中ニ於テハ放送ニ一流出演者ヲ配合シタル特輯番組ヲ編成シ全國中繼ヲ爲スト共ニ陸海軍内務文部逕信厚生等ノ各官廳名入りポスターノ全國的揭示、パンフレットノ頒布ヲ爲シ、又ラヂオ商工業者供電業者等ニ對シ逕信大臣名會長名等ニ依ルラヂオ普及運動認識強化ノ協力依頼狀等ヲ發送シ以テ受信機ノ特賣等ヲ活潑ナラシムルト同時ニ映畫會講演會等各種ノ催物ヲ行ヒ全面的ニ之ヲ後援シ、又全國有力未加入者ニ對シテハ前年追加加入勸誘狀等ヲ送付シ新規加入者獲得ニ努力シタルガ更ニ一般國民ヲシテラヂオニ對スル關心ヲ誘起セシムル爲メラヂオ標語ノ懸賞募集ヲ行ヒ約七萬餘ノ應募ヲ見ル等多大ノ效果ヲ收メタリ

又ラチオ技術ノ普及徹底ヲ計ル爲ラチオ技術者養成講習會ヲ全国各地ニテ開催シタルガ其ノ開催回数二七八回開催日數一三六〇日受講人員二四八八一人ニ達シタリ而シテ之ガ受講者ハ主トシテラチオ業者、供電會社従業員、青年團員、郵便局員等ニシテ其ノ他ニ前年通傷病兵ニシテ受講スル者多カリシハ注目ニ價スル所ナリ

一五、特殊サービスノ充實

聴取加入者ノ増加ト共ニ受信機診療事務ハ益々増加シツツアルガ本年度ニ於テモ極力診療事務ノ改善擴充ヲ圖リ、常設相談所並ニ定期不定期ノ巡回相談ヲ實施シ、都市ハ勿論地方農山漁村方面ニ於ケル相談事務ノ圓滑ヲ圖リ、機器故障ニ依ル聴取廢止者ノ防止ニ努力シ、併セテ未加入者ニ對スル加入開發ニモ活動セシメタルガ、全國固定相談所六十三箇所ニ於ケル取扱受信機診療件數ハ五十萬四千七百七十六件ニ達シタリ、又昭和十一年ニ制定シタルラチオ相談所指定規程ニ依ル指定ラチオ相談所制度ハ本年度ニ於テハ全国各地ニ實施セララルコトトナリ、現在ニ於ケル指定相談所總數ハ千九百二十二箇所、其ノ主任技術合格者數ハ四千二百十一人ニ達シ、昨年中ノ受信機診療件數ハ百十七萬二千餘件ニ達シタリ

一六、受信用機器認定

本制度ノ本年度ニ於ケル取扱狀況ハ、認定合格二一件、不合格一一件、申請取消七件、處理未済五件ニシテ之ヲ機器別ニ見ルニ、真空管其ノ首位ヲ占メ、高聲器受信機之ニ次グノ順位ナリ、尙認定有効期間滿了ニ依リ認定ヲ失效トシタルモノ八十四件、製作廢止ノ事由ニ依リ認定ヲ取消シタルモノ四十八件アリ、年度末現在認定品總數ハ受信機一二種一四機、部分品一七九種一九九機ナリ、認定品中受信機及高聲器ノ製作狀況ヲ協會發行ノ認定「マーク」ヨリ推察スルニ、受信機約八萬一千、高聲器約十四萬六千ニシテ、昨年ニ比シ相當ノ減少ヲ示セルガ、其ノ原因ハ局型受信機制度ノ實施ニ依リ之ト供用範圍ヲ同ジクスル受信機ノ認定取扱ヲ中止シタルコト、時局ノ影響ニ依リ材料配給ノ不圓滑ヲ來シ一定製品ノ製作持續困難トナリタルコト等ニ依ルモノト認めラル

一方認定規格ハ最近技術ノ進歩發達ニ即應セシムベク高聲器規格ヲ昭和十四年十月十六日改正實施シタルガ、尙時局ノ影響ニ依リ受信機用資材ノ入手困難ヲ來シ材料ノ節約及代用品使用ノモノ増加ノ結果、之ガ受信機ノ性能ニモ尠カラズ影響ヲ及ボス、實情ニ鑑ミ、之ニ對處スル爲材料配給ノ安定期迄ヲ條件トシテ現行ノ放送聴取用受信機規格ノ合格條件ニ特例ヲ認め、昭和十四年十二月二十八日ヨリ實施セリ

一七、放送局型受信機

放送局型受信機ハ政府ヨリ我國ノ標準受信機トシテ認定セララルト共ニ製造場ヨリノ移出價

格二十六圓未滿ノモノハ支那事變特別稅物品稅免除ノ特典ヲ附與セララルモノニシテ、本年度ニ於テ之ガ製作ヲ承認シタルモノ第一號第三號機十社、第十一號機九社ナルガ尙第十一號機ハ認可申請中ノモノニ社、認可申請手配中ノモノニ社アリ、而カモ時局ノ進展ニ即應シ一段ト資材節約ノ徹底ヲ期スル爲トランスレス式受信機制定ニ關シテモ目下遞信省ニ認可申請中ナルガ、一面是等受信機製作資材ノ節約代用等ニ付テハラチオ用品委員會ヲ擴充シ慎重研究ノ上有效適切ナル措置ヲ講ジ來レリ

一八、支那事變關係臨時施設

支那事變勃發當初ヨリ現地ニ於ケル放送機能ノ緊要性ニ鑑ミ現地軍、陸海軍、外務遞信各省ト緊密ナル連絡ノ下ニ現地放送施設ノ設置運営ニ任ジ、上海方面ニハ職員ヲ派遣シ又北支方面ニハ人材機材ヲ提供シ以テ大電力放送局一局、小放送局五局ノ放送業務ヲ運行セルコトハ既ニ昭和十二年度ニ於テ報告セシ處ナルガ、其ノ後宣傳宣撫其ノ他ノ特殊使命ヲ有スル本事業ハ戦局ノ進展ニ即應シテ益々擴充シ、昭和十四年度末ニ於テハ北支方面ニ放送局數一〇、放送施設數一九ニ及ビ此ノ内曩ニ設置ノ第一期計畫大電力五〇キロワット、放送施設ニ代ル第二期計畫ノ新規一〇〇キロワット、放送施設ヲ目下建設中ニテ近ク之ガ放送開始ヲ見ントシ、又既設小放送局モ夫々電力ノ増大整備ニ當リツツアル現状ナリ、而シテ是等放送施設ニ對シ事變以來同方面ニ送付ノ受信機數量

ハ約一〇〇〇〇臺ニ上リ之ガ販賣配布ニ付テハ現地軍ト連絡ヲ取り有效ナル方策ヲ講ジ同方面ノ受信機普及ニ努メ、現地放送事業ノ效果ヲ擧ゲツツアリ

又當協會ハ中支方面放送施設中一〇キロワット、放送施設機材二ノ供給及建設、竝ニ南支方面ヘノ五〇〇ワット、放送施設機材一ヲ供給セリ

而シテ是等現地ニ於ケル放送事業ニ對シ當協會ヨリ派遣シタル職員ハ十四年度末現在ニ於テ北支方面ニ七十二名、中支方面ニ五十五名ノ多キニ達セリ

一九、實用新案登錄

(イ)「ラヂオ」受信機試驗用振動電流測定裝置ニ關スル考案ヲ爲シ昭和十四年十月二十五日付第二七五一四〇號ヲ以テ登錄セラレタリ

(ロ) 周波數同期裝置ニ關スル考案ヲ爲シ昭和十五年一月十一日付第二七八一八七號ヲ以テ登錄セラレタリ

(ハ) 光電管透像器ニ關スル考案ヲ爲シ昭和十五年二月一日付第二七九四九一號ヲ以テ登錄セラレタリ

(ニ)「ラヂオ」雜音防止用接續管ニ關スル考案ヲ爲シ昭和十五年二月十五日付第二八〇一二〇號ヲ以テ登錄セラレタリ

右ノ外現ニ出願中ノモノ特許十六件實用新案十七件アリ

二〇、事業ノ調査研究

(一) 放送番組聴取状況調査

東京市及阪神地方聴取者ノ種目別聴取状況ヲ晝夜ニ分チテ明ニスル爲、夜間ノ聴取状況ニ就テハ東京市ハ十四年四月ヨリ一ケ年間、阪神地方ハ同八月ヨリ八ケ月間、又晝間ノ聴取状況ニ就テハ兩地共季節毎ニ各一週間ニ互リ、毎日一千五百世帯ニ對シ調査票ヲ配付シテ調査ヲ實施シタル結果各種目ノ聴取状況及其ノ地方的特異性ヲ具體的ニ確認スルト共ニ、聴取状況ヲ制約スル法則性ヲ發見シ番組編成ノ改善、基本回数ノ改正等ニ資スル好個ノ基礎資料ヲ得タリ

(二) 放送ニユース効果調査

東京市在住ノ知識階級ニ屬スル聴取者一千名ヲ對象トシ、十四年六月中旬特定日ノ放送ニユースノ聴取効果及放送ニユースニ關シ平素抱懷スル意見、希望等ヲ調査シタル結果ニユース編輯アナウンス技術其ノ他ノ改善資料ヲ得タリ

(三) 家庭婦人ノ希望調査

家庭婦人ヲ對象トスル放送ノ企畫ニ資スル基礎資料ヲ得ル爲、十四年七月下旬東京市内ノ家庭婦人二萬名ニ就キ本調査ヲ實施シ、其ノ放送内容ニ對スル嗜好乃至希望、放送聴取好適時間等ヲ年

層別、未婚既婚別ニ明ニスルヲ得タリ

(四) 出征軍人遺家族ノ希望調査

出征軍人ノ遺家族ヲ對象トスル放送ノ企畫ニ資スル目的ヲ以テ、十四年七月下旬東京市内ノ遺族一千五百名留守家族三千名ニ就キ、其ノラヂオニ對スル希望、意見等ヲ調査シ、遺家族ノ示ス特殊ナル要求傾向ヲ報道、教養、慰安ノ種目別ニ把握スルヲ得タリ

(五) 放送用語並ニ發音改善調査

年度内十九回ニ涉リ調査委員會ヲ開催シ用語關係各種問題ヲ審議決定シタルガ、本調査ノ結果得タル資料トシテハ、放送用語調査委員會決定語彙(一)(二)(三)、難讀町村名、紀元二千六百年祝典用語、「皇室ニ關スル敬語ノ用法」ヲ部内ニ配付シ、「同音語類音語調査」續演劇外題要覽、「放送アクセント辭典」ヲ目下印刷中ナリ

尙用語調査事務ハ昭和九年一月開設シ、爾來調査委員會ヲ開催スルコト、百六回別ニ小委員會十五回ニ及ビ之ガ基本的調査ハ概ネ完了シタルヲ以テ本年度限り一應終了ノコトトシ、昭和十五年度ニ於テハ更ニ之ガ實用化ノ促進ヲ圖ル見込ナリ

(六) 放送設備ニ關スル研究

(イ) 前年度ニ引續キ「テレビジョン」用超短波送信機ノ研究試作ニ全力ヲ注キ之ガ實驗放送ヲ開始シ得ルノ一段階ニ到達セリ

(ロ) 出力五〇ワット尖頭出力二〇〇ワット周波數一〇〇メガサイクルノ「テレビジョン」中繼放送用送信機ノ試作研究ニ着手セリ

(ハ) 割當ラレタル放送周波數帶不足ヲ告ケル現狀ニ於テ之カ救済ノ一策トシテ又非常時ニ於ケル放送對策トシテ二重變調ニ依ル超短波放送ノ研究ニ着手セリ

(ニ) 放送機ニ於テ生ズル雜音ノ特質竝ニ測定法空中線效果測定法竝ニ特殊增幅器ノ利用法等ニ就キ研究セリ

(七) 空中線ニ關スル研究

(イ) 前年度ニ引續キ「テレビジョン」試験放送用空中線及饋電線濾波器ヲ研究シ之ヲ完成ス又受信用空中線ノ研究ヲ行ヒタリ

(ロ) 「フェーディング」防止二重放送用空中線ヲ考案シ之カ實用化ニ就キ研究セリ又低型「フェーディング」防止空中線ヲ考案シ模型ニ依リ實驗ヲ行ヒタリ

(ハ) 飛行機ニ依リ大電力放送空中線ノ輻射特性ノ測定ヲ完成スルト共ニ「テレビジョン」試験放送用空中線ノ輻射特性ヲ測定シ超短波ノ地表反射狀況ヲ確メタリ

(ニ) 既設局ノ空中線ニ簡易ニ指向性ヲ附與スル目的ヲ以テ錨型空中線ヲ考案シ、松本放送局ノ空中線ニ就キ之ヲ試驗セリ

(八) 電波傳播ニ關スル研究

(イ) 既往ノ諸資料ヲ綜合シ近距離「フェーディング」ニ依リテ定マル良聽範圍ニ關シテ諸型ノ空中線ノ效果ヲ調査シ、又内地各地ニ於ケル東京大電力電波ノ到達狀況ヲ調査セリ

(ロ) 超短波電界強度測定器及測定法ノ研究ヲ行ヒ「テレビジョン」電波ノ東京全市内竝ニ富士山ニ於ケル電界強度ヲ測定シ傳播狀況ヲ調査セリ

(九) 特殊放送ニ關スル研究

(イ) 前年度ニ引續キ同一周波放送ノ研究ヲ行ヒ無線同期裝置ノ試作研究送信機妨害位相變調測定裝置ノ考案試作竝ニ障害除去ニ關スル研究ヲ爲シ函館高知兩局ノ同一周波放送試驗ニ依リ遠距離同一周波放送ノ可能性ニ就キ調査セリ

(ロ) 同一搬送波ニ依ル二重「プロ」放送トシテ從來ノ變調ノ他ニ周波數變調ヲ加フルコトヲ企圖シ受信方法研究中ナリ

(ハ) 周波數變調方式ヲ應用シ中繼放送ニ使用スル目的ヲ以テ其ノ特性ヲ究明中ナリ

(一〇) 送話器ニ關スル研究

低雜音送話器ノ研究ヲ續行シ其ノ實用化ニ就キ構造及使用法等考究中ナリ、又可動線輸送話器及クリスタル送話器ニ就テモ應用試驗中ナリ

(一一) 演奏室音響ニ關スル研究

(イ) 東京放送會館演奏室ノ音響狀態ノ詳細ナル調査ヲ行ヒ部分的改善ニ資スル研究ヲ續行中ナリ

(ロ) 直讀殘響計ニ關シ新ナル考案ニ依ル精密測定器ヲ研究試作セリ

(一一) 錄音ニ關スル研究

(イ) 無雜音錄音再生方式ノ研究ヲ續行シ目下現業ニ供シ試驗中ナリ

(ロ) 錄音盤ヲ改良研究中ニシテ「ラツカ」塗附盤ニ就テハ略完成セリ、尙「プロツク」盤ニ就キ試作研究中ナリ

(一二) 周波數標準器ニ關スル研究

標準周波數ノ發生及其ノ確度ノ向上ニ關スル研究、發振器ノ安定度ノ研究及周波數測定裝置放送周波數監視裝置ノ研究ヲ行ヘリ

(一四) 受信機ニ關スル研究

前年度ニ引續キ「トランスレス」局型受信機ノ試作研究ヲ行ヒ三球二種、四球一種ヲ完成セリ、又受信機用各種「コイル」ノ研究、遮蔽管ノ研究、檢波器歪研究、廣帶域中間周波增幅器ノ研究、變換利得ニ關スル研究、受信機内部雜音ノ研究ヲ行ヒ夫々設計上好個ノ資料ヲ得タリ

(一五) 高聲器ニ關スル研究

前年度ニ引續キ電磁型高聲器ノ調査、新型各種高聲器ノ解剖試驗ヲ行フト共ニ音響測定器ノ改良測定室ノ改装並ニ機械的測定裝置ノ試作ヲ爲セリ

(一六) 聽取障害防止ニ關スル研究

各種障害波ノ基礎的研究ヲ行フト共ニ防止器ノ具體的設計ヲ行ヒツツアリ

(一七) 「テレビジョン」ニ關スル研究

(イ) 昨年度ニ於テ大體完成セシ實驗設備ヲ十四年五月以降數度ニ互リ一週間乃至十日間連續的ニ實驗放送ヲ施行セリ

(ロ) 撮像管ニ就テハ「モザイク」面ノ増感法及電子「ガン」ノ改良ヲ行ヒ相當ノ成果ヲ收メタリ

(ハ) 受像管ニ就テハ螢光物質ノ電位降下現象ノ實驗的研究及理論的考案ヲ行ヘリ、又直接投寫受像管、「モノスコープ」ニ就テモ引續キ研究中ナリ

(一八) 置局ニ關スル技術的調査

計畫中ノ大電力局ノ電界分布ノ推定、大電力局ニ依ル小電力局整理ノ可能性、極小電力局相互間ノ妨害狀態推定、非常用都市小電力ニ關スル調査、其ノ他置局ニ對スル受信機混信特性並ニ非常用中繼受信機ノ選擇特性ノ關係等ニ付調査ヲ行ヘリ

(一九) 放送網ニ關スル調査

東亞ヲ一體トスル恒久對策ノ爲ノ基本條件ニ付考察スルト共ニ刻下ノ諸問題ニ付テモ解決策ヲ調査シ又歐洲ニ於ケル本問題ノ現狀ヲ調査シ參考トセリ

(二〇) 非常時對策ニ關スル調査

電波ノ戰時編成、雜音放送等ノ問題ニ付調査スルト共ニ別項放送技術調査會ニ於テ其ノ具體案ノ審議ヲ進メツツアリ

(二二) 短波放送ニ關スル調査

日本及支那ニ於ケル短波放送ノ技術的諸問題ヲ考察シ、又英國ノ短波放送現狀或ハ日伊短波放送ニ關シ交換セル受信成績等ニ付調査研究セリ

(二三) 放送技術調査會ノ設置

放送ニ關スル技術ノ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲昭和十四年八月本調査會ヲ新設シ會長ヲ議長ニ、技術局長ヲ副議長トシ部内委員八名ノ外部外ヨリ十八名ノ委員ヲ委囑シタルガ、現在放送網分科會非常時對策分科會ノ二分科會ニ分テ夫々審議ヲ進メツツアリ

(二四) 放送中繼線ノ改善試験

昭和十四年十一月主務官廳ノ協力ヲ得テ東京名古屋、名古屋大阪間ノ放送中繼線特性試験ヲ實施セリ、之ニ依リ札幌熊本ヲ繼グ放送中繼幹線ノ特性試験ヲ完了シ主務官廳ト協力シ特性改善ニ努メツツアリ

(二五) 地方各局演奏室音響特性ノ調査

演奏室ノ改善竝ニ設計上ノ資料ヲ得ル目的ヲ以テ仙臺、札幌、山形、弘前、函館、盛岡、新潟、長野、松本、甲府、静岡及名古屋ノ十二局ニ就キ演奏室音響特性ノ調査試験ヲ施行シタリ

昭和十四年度 貸借對照表
收支計算書
財產目錄

貸借對照表

昭和十五年三月三十一日調

借方		貸方	
土地	三、二一九、一五四 _四	出資金	一、三六六、八〇〇 _四
建物	八、〇一一、九一九 _{二八}	御下賜金	四三〇〇〇
工作物	一、五六七、八三〇 _{九〇}	寄附金	一、一四、八九九 _{八七}
機械器具	六、八九二、六一三〇 _二	保證預り金	八五、〇五九 _{五〇}
銀行預金	四、八五八、九〇二 _{五八}	假受金	三八三、一六〇 _{三七}
振替貯金	一八七、〇〇五 _{五八}	未拂金	二八、九二六 _{八九}
現金	一二、四七五 _{一七}	既往繰入勘定	二五、一八二、一九三 _{二三}
貸付金	四、五五七、五九〇 _{七二}	本年度剩餘勘定	五、九三六、六九五 _{六二}
前渡金	八、六〇四 _{一九}		
所有々價證券	一、一二九、四三四 _{七六}		
保證差入有價證券	八三九 _{三八}		
保管有價證券	七五、八一九 _{五〇}		
保證預り金	一、〇〇〇 _{〇〇}		
同盟通信社入社金	二一三、〇〇〇 _{〇〇}		
北支放送施設費	一、九七八、四〇九 _{五〇}		
未精算金	三八三、五六六 _{四九}		
假拂金	三三、〇九八、一六五 _{四八}		
計	三三、〇九八、一六五 _{四八}	計	三三、〇九八、一六五 _{四八}

收支計算書

自昭和十四年四月三十一日
至昭和十五年三月三十一日

借方	貸方	
	金額	摘要
放送技術費	四、〇三五、七七五 ^四 〇	聽取料收入
技入費	一、八二六、三六五 ^四 六	預金利息
特殊サービスマニ	一、九一〇、二五六 ^三 二	貸付金利息
特殊サービスマニ	六一〇、三三〇 ^二 七	株式配當金
許可料	七九九、五四二 ^二 〇	雜益勘定
許納料	一六三、四一四 ^五 〇	
事務納費	三、〇九二、五八六 ^二 四	
研究所費	二、二八二、四六二 ^〇 六	
臨時特別施設費	一、〇一四、五九二 ^一 六	
職員退職手当基金	二、三三八、三五三 ^二 〇	
道府縣納付金	三、五五五、〇〇〇 ^〇 〇	
放送施設費	一、八五六、三〇二 ^〇 〇	
線路施設費	五二、七六三 ^七 五	
局舎建築費	一、三三三、四九四 ^七 七	
局舎建築費	一一二、四八八 ^八 〇	
研究所設備擴張費	五〇四 ^三 一	
雜損勘定	三三三、四〇九 ^九 九	
償却勘定	一、三七五、〇九七 ^二 三	
本年度剩餘勘定	五、九三六、六九五 ^六 二	
計	二六、〇五〇、六一三 ^五 三	計
		二五、四三五、二六七 ^四 七

財産目録

昭和十五年三月三十一日調

科目	目	摘要	金額
土地	地物	局舎敷地其他五五一、四一二・六七七平方 局舎及附屬建物七九、四八七・九二平方	三、二一九、一五四 ^四 一 八、〇一一、九一九 ^二 八
工作物	物	空中線裝置其他	一、五六七、八三〇 ^九 〇
機械器具	具	放送機其他	六、八九二、六一三 ^〇 二
銀行預金	金	定期預金其他	四、八五八、九〇二 ^五 八
振替貯金	金		一八七、〇〇五 ^五 八
現金	金		一一、四七五 ^一 七
貸付金	金	朝鮮放送協會及同盟通信社其他貸付金	四、五五七、五九〇 ^七 二
前渡金	金	各出張所其他支拂準備金	八、六〇四 ^一 九
所有々價證券	券	滿洲電信電話株式會社株式其他	一、一二九、四三四 ^七 六
保證差入有價證券	券	ニユース發行保證金代用差入有價證券	八三九 ^三 八
保管有價證券	券	外勤者身元保證預り金其他ノ代用有價證券	七五、八一九 ^五 〇
保證預金	金	事務所借入金	一、〇〇〇 ^〇 〇
同盟通信社入社金	金	二、一三〇 ^〇 分	二、一三〇、〇〇〇 ^〇 〇
北支放送施設費未精算金	金	北支放送局建設及維持料	一、九七八、四〇九 ^五 〇
假拂金	金	共同聽取關係經費其他	三八三、五六六 ^四 九
計			三三、〇九八、一六五 ^四 八

14.8
168

14.8

168



終